（様式第３号）

2021 年 11 月 17 日

議員視察報告書

赤穂市議会
　議長　　山田　昌弘　様

議員氏名　荒木　友貴

下記のとおり、調査に参加しましたので、報告します。

記

１．実　施　日　　2021 年 11 月 16 日（火）
　　（1 日間）

２．主な調査事項・意見交換内容(詳細については別紙のとおり)

　赤穂市の観光を取り巻く状況について(意見交換)
　・観光に関する各種キャンペーンについて
　・JR赤穂線の減便の影響について
　・水上バイクの規制について
　・赤穂版DMOについて　　他

担当者：兵庫県産業労働部 観光局 観光企画課　山本信之副課長

３．調査地または開催地
　兵庫県産業労働部 観光局 観光企画課
　兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1（1号館7階）

（様式第３号）
　主な意見交換内容：
(1) 観光に関する各種キャンペーンについて
①兵庫を旅しようキャンペーンに伴う利用客の増加について
②国のＧｏ to トラベル開始までの兵庫県のキャンペーンの継続見込みについて

　兵庫県の実施する「兵庫を旅しようキャンペーン」の助成により、赤穂市でも観光客が増加している。ただし、このキャンペーンが 12 月 31 日までの対象期間となっており、国のＧｏｔｏトラベルが 2 月開始予想といわれる中、1 月中の予約に影響が出ないか旅館側は危惧している。兵庫県のキャンペーンを国の実施まで延長してもらいたい。また、現在の兵庫県のキャンペーンの予算執行状況と今後の見通しを教えてもらいたい。

→・兵庫県では、Ｇｏｔｏトラベルの全国割分で 50 億円の予算を国からもらっている。元々2021 年 5 月末までの期限で 55 億円の予算があったがコロナの影響により実施が延期になっていた。プレ実施として 7 億使っているが、11 月現在で 20 億円程度の使用実績で事業終了時点では大幅な執行残が出る。県の単独予算で実施するのは難しいが、国のこのＧｏｔｏトラベル予算を延長し仮に 2 月まで実施するとすれば、予算的には余力が十分ある。現在全国知事会で要望を出しており、国からの返答待ちとなっている。

③ＪＲデスティネーションキャンペーンの取り組みについて
・2021 年 12 月 17 日に全県推進協議会を開催する予定である。また、2022 年には 9 月 26 日に全国旅行商談会を開催するので、市と共同で旅館組合なども商談に来てもらえればＰＲ効果が高められる。
・今回は「会いたい兵庫」という名称から、「ひょうごテロワール旅」という名称に変更し、現地でしかできない体験と食を組みわせた提案を行っていきたい。
・プレイベント時から、各市町にはデスティネーションキャンペーンを冠したイベント設定を行ってもらい盛り上げてもらいたい。現在、観光列車やＪＲの臨時便を交渉中であり、利用駅に選定されれば各市町のおもてなしの面で協力してもらいたい。
・赤穂市に関しては、来年岡山県が本格実施の年に当たるので、観光列車の利用駅などで隣接県としてＰＲに乗れることがないか、観光企画課からＪＲ側に打診をしている。

(2) JR 赤穂線減便に伴う影響について
①赤穂市の観光面では、昼食利用の時間帯に関し、JR の減便の影響が大きく出ている。旅館側ではお昼の送迎がそれぞれ 2 便から 1 便になる、JR 播州赤穂駅での待ち時間が長くなるなど影響が出ている。これから、12 月から 3 月末にかけて例年牡蠣のシーズンに利用客が増えるが、トップシーズンに減便の影響が出るので考慮していただきたい。

（様式第３号）
　2023年度に兵庫県でJRのデスティネーションキャンペーンがいざ始まっても、減便による影響でこれ以上集客が難しいとなれば、JR・兵庫県・赤穂市にとってPRしがたいことになるので、プレ段階から地道に交渉していきたい。

②JR沿線の4市町(たつの市、赤穂市、太子町、上郡町)が合同で利便性向上に関する要望書を8月に提出しているが、その後大きな要望活動として動きが見られない。個別に赤穂観光協会・JR播州赤穂駅を愛する市民の会・赤穂旅館組合が、JR西日本に対し嘆願書を10月に出しているが、今後はオール赤穂としての取り組みが必要である。
　今回は、観光面から協力を依頼しているが、移住・定住分野においても、公共交通整備は重要なので今後各部署・団体に渡って情報交換等を行いたい。

③JR側にとっても、利用促進について赤穂市の協力姿勢や提案がないことには、採算上減便の流れを止めることが難しいと思うので、市や影響を受ける団体と兵庫県とが協力して議論できるよう県にも協力をお願いしたい。

→・兵庫県知事からも減便に伴う影響が出ていないか気にする声があり、個別に赤穂温泉旅館にヒアリングを行った経緯がある。減便に伴う利用客の減に関する数値データがあるとより議論しやすいので、赤穂温泉旅館に依頼して提出があると有難い。
・斎藤兵庫県知事がＪＲの長谷川社長と減便の影響について意見交換を行ったところである。
・2022年3月のダイヤ改正案で、ＪＲはさらにドラスティックな減便案を準備している。コロナの影響だけでなく、マイカー利用客の増加もあり、県下全域で赤穂市以上に減便が厳しいところも出てくると予想される。
・JRとしては在来線以上に、新幹線の利用客が減少したことが痛手となっている。そのため、新幹線利用客に対し相生駅からの送迎プランも提案し、二次交通の整備も含めて市として取り組んでいただけると、在来線の減便対策と抱き合わせで提案要素になり得るのではないか。(赤穂温泉旅館が個別に送迎バスを出せない場合、市の二次交通として相生駅と播州赤穂駅間の送迎を検討するなど)
・JRの減便については、観光企画課が主担当ではなく、県土整備部が管轄だが観光面を抜きにしては語れないので情報共有を行っていく。

(3)赤穂版DMOについて
・赤穂版ＤＭＯを一般社団法人として設立したことに関する情報交換

→兵庫県のひょうご観光本部(ひょうごＤＭＯ)と兵庫県観光局との設立経緯に関し、今後教示できることがあれば情報交換に協力する。特に民間登用やマーケティング人材の確保

（様式第３号）
についてや組織体系については、機能的に動くために非常に重要な部分であるので情報協力する。

(4) 水上スキーの問題について
・今夏赤穂市でも水上スキーが問題になったことの意見交換
・体験型観光や海岸付近の観光施設のための環境整備について

→・豊岡市の竹野では、ジオパーク活動の一環としてジオタクシー(漁船利用)がある。今後の海岸利用の一つの方法としてアクティビティの一つとして提案できるのではないか。
・明石市や淡路島でもこの夏から秋にかけて水上スキーの問題が出ているので、引き続き情報交換を行う。

【所　感】
　ＪＲの減便対策や、県下のキャンペーンなど観光面に関して赤穂市に関わる課題について広く情報交換を行った。今後兵庫県と足並みを揃え要望活動を行ったり、観光施策を実施するための関係性を作るため意見交換ができたと思う。公共交通の問題については、観光客の誘致にとどまらず赤穂市にとっては住民生活にも関わるので、キャンペーンの本格実施と並行して協議を進められるよう取り組みたい。